

## 報 告 書

2017年6月 15日

志政会  
代表 望月厚司 様

議員名 佐藤成子

下記のとおり、政務活動費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2017年6月10日(土) 13:30~17:30	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	市民も変わる、行政も変わる！！オープンガバナンス チャレンジ！！オープンガバナンス2017に向けて ～COG2016の受賞チームと審査委員有志によるトー ク～
	(2) 対 応 者	東京大学本郷キャンパス 工学部2号館4階241号室 於いて 主催：東京大学公共政策大学院PADIT研究グループ 共催：東京大学ソーシャルICT/GCL育成プログラム 連携：Harvard Kennedy School、 ASH CENTER
3 目 的	テーマ：チャレンジ！！オープンガバナンスの実践、課題、意義、将来のテーマに誘わ れて参加。コンペなので、どんな内容で進められたのか？どんなところが応募している のか？その意義はどれほどのものなのか？そしてこれからどのように発展していくのか 探るべく参加した。わが市の実情も知りたいと思っでの参加した。	
4 内 容	<p>第1部 COG2016の受賞チームと審査委員有志とのダイアログ</p> <p>(1) イントロダクション COG 一年の成果と将来 公共政策大学院 奥 村教授 (15分)</p> <p>◆市民も変わる、行政も変わる！！オープンガバナンス 市民も変わる：地域の課題の解決に自分の問題として取り組む市民が 増えていく。 学生も変わる：市民参加型社会を担う未来市民に自らを磨く学生が増 えていく。 行政も変わる：知識と経験を活かして市民参加型社会のプラットホー ムとなる。</p> <p>◆①チャレンジの仕組み STEP1（自治体からの課題募集 6月～8月）STEP2（市民・ 学生の解決アイデア募集 9月～12月）STEP3（審査・改善アド バイス 1月～4月）</p>	

②チャレンジ！オープンガバナンス 2017 の応募条件③チャレンジの手順及び日程④審査項目などを説明された。

(2) 受賞チーム振り返りプレゼン (各 15 分)

### オープンガバナンス総合賞『チャレンジ中野』

《Grow Happy Family & Community》と  
中野区関係者

地域課題⇒家庭養護の推進

アイデア名⇒地域とつながる「子育て」と「里親制度」

～ママからファミサポへ。ファミサポから里親へ～

アイデア⇒ファミリーサポート事業と里親制度を結びつける制度

子どもの心の大きな傷になる親子分離・虐待防止・地域で幸せに育つ  
親と子を増やすことが社会的コストを減らす一番の解決策！

◆里親（サポーター）の開拓・子育てを学ぶ研修とコミュニティー・  
子育て力を仕事に

◆社会的養護のコストと効果

児童養護施設で育つと一人当たり年間約 400 万から 700 万。0 歳から 18 歳までの場合 8000 万円かかる。なのに、就職しても 1 年間で 40%が離職、進学しても 20%が中途退学する。孤立しやすい。心の傷がいえないうちに自立しなければならない。⇒地域を温めよう！！

※周知活動で地域を盛り上げる！子育てステーションとなる場づくり  
ファミリーサポートと里親制度をつなぐ準備

現在 12 家庭を 25 家庭に。みんなで守ろう私達の宝物・子ども・を！

この他、新潟グループや川崎市、室蘭グループの事例発表があった。

## 第 2 部

### COGのプロセス

地域課題とオープンデータ⇒アイデアの生成①内容②理由③実現プロセス  
自治体との連携①データ提供②知識提供③コミュニケーション⇒応募⇒公開審査

データの種類①Thick Data（人間の行動の何故を知るデータ・人の行動観察・エスノグラフィー）②Thin Data（人間に限らず事実を知るデータ・統計やBig Dataなどから知る事実）

5 成果・市政への反映等

アイデアを実現するためのデータをどのように収集していくかがカギになる。どれだけ行政がデータ提供しているかも重要なことだ。ThinDataをどのように分析しThickDataでどのように深めていき、解決のアイデアに結び付けていけるかが情報という道具を活かせるかどうかにかかってくる。単なる提案ではなく、データに基づいたものは、理解されやすいし共感しやすいものになる。子育てのアイデアが多かったが、我市ではすでに行政が行っているものも見られたが、行政が企画しにくい、いわば隙間的なアイデア・提案が必要と感じた。静岡市は、以前から里親制度はあったがなかなか受け手が少なく大変な状態が続いていたが、関わっている人（市民）の努力で、理解が進み、里親制度の推進がなされている。やはり人が大事だ。より良い社会を創るのは、誰か？より良くなるための人を人のせいにするのではなく、何かの理由を外に求めるのではなく、今ある力にフォーカスすることが大事だ。今あることから始めていく。今、自分にできることは何か？出来ることから始めていけばいい。一方、行政は、やれる人をどう育てていくかが課題だ。静岡市のこ・こ・にが定着することを願っている。始める力を持つ女性としっかり仕組みを作る男性と一緒にやれば、とてもいいものができるという説明に、さもありなんと思った。行政（職員）は、自分の予期せぬ方向に行くことを恐れるが、市民の声をしっかり聴き受け止めるべきだ。リスクを取る必要はない。飛び出して市民と語るべきだの説明にも納得。これが課題だ！と実感している人が解決策を見つけていき、市民として、その課題をどう解決していけるか？自発的な動きをしていきながら行政との信頼関係を作っていけるか？よりよい地域住民、自ら、ThinDataをどう駆使しThickDataを分析していけるか、課題解決のための提案をどうできるか。出来るだけ多くの情報公開が大事だ。まさに、静岡市のオープンガバナンスが進むことを期待する。